

Regarding 2020 United States Presidential

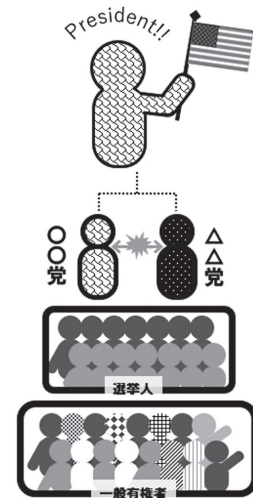
2020年11月3日、2020 United States Presidential Election（2020年アメリカ合衆国大統領選挙）が行われたことは、皆さんの記憶に新しいのではないのでしょうか。その数ヶ月前の9月には日本では在任期間が歴代最長となった第2次安倍政権が終了しましたが、それ以上にこのたびのアメリカ大統領選挙は日本中の人々もメディアも、アメリカ国民でないにも関わらず驚くほどの関心を持って見守っていたのではないのでしょうか。こんな場面に遭遇することもなかなかないので、今回はアメリカ大統領選挙の仕組みについて触れてみようと思います。

大統領の任期は、1期につき4年、最長で2期8年まで在任できます。基本的に任期中に交代が生じることはありませんので、選挙は4年に1度。世界でナンバー1の国の政治的リーダーを選出することになるこの選挙は、ほぼ1年を通して行われ国中がお祭り騒ぎになります。活動制限の多い日本の選挙活動を思い浮かべるとなかなかイメージが湧かないかもしれませんが、アメリカの選挙活動は自由度が高く、その中でも討論会などは、講堂やスタジアムに候補者と有権者が一堂に集まって大盛り上がりするというようなイベント要素が強かったりします。有権者は、その空間の中で感じる一体感により政治に対して関心・主体性を高め、それが結果、それぞれの候補者・政党への支持や投票率の高さに繋がるのでしょうか。特に、今回の選挙の投票率はここ100年で最高とも言われる盛り上がりを見せており、それだけ注目されていたということが伺えます。

さて、選挙には一般的に直接選挙と間接選挙がありますが、有権者が投票した票がそのまま当選に繋がる直接選挙とは違い、アメリカ大統領選は間接選挙方式を取っています。図で説明すると、このように感じます。

まず、各州で一般有権者が投票を行い、そこから「選挙人」が選出されます。そして選挙人が、〇〇党と△△党、2つに絞られた政党の代表（各党内で予備選挙を行い事前に選出）のいずれかを選び、大統領が決まる一という2段階構成になります。

先般の選挙では、共和党と民主党が激戦を繰り広げました。それぞれの政党の特徴を一言でいうと、共和党は保守派、民主党はリベラル派。大統領選では、代表者たちがそれぞれの目指すアメリカについて熱く討論、主張します。今回取り上げられていた新型コロナウイルスに関する対策をはじめ、各国との外交問題、人種差別問題、移民政策、LGBT、銃規制、環境問題など、アメリカに古くから根付いている問題から世界的な取り組みに関わる課題まで、様々な内容が挙げられていました。かつては、絶対的な価値観やフィルターにより議論にすんならなかつたテーマがこのように顕在化している実態は、多様性を受け入れる社会に変化しつつあることの証でもあるのではないのでしょうか。



このように「大統領選挙」と一言で言っても、選挙の仕組みだけではなく政策や演説、課題になっているテーマなど複数の視点をもって眺めていくと、探求心が尽きることはありません。

どんなテーマであってもそれを考えるとき、様々な視点を持って情報収集をすることで、より自分自身の知識に奥行きと深みを増すことができるものです。そんな本に出会うために、検索スキルを身に着けたい！と感じた方は、館内に設置されているリーフレット「まずはこれだけ OPAC検索 入力 のヒントとコツ」を手にとって実践してみてください。また、閲覧カウンターのスタッフもお手伝いしますので、お気軽にご相談ください。

